

天竜区特別委員会協議事項

〔 令和 8. 1. 16（金）午後 1 時 30 分
於：天竜区役所 2 階 21・22 会議室 〕

1 天竜区特別委員会の今後の進め方について

【議会事務局】

天竜区内 5 地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
天竜	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>移住を考えている人たちにとっても、ネガティブな情報</u>の一方でそれをカバーするような<u>プラスな情報があれば、前向きに考えていただけたらと思うので、この点について考慮していただきたい</u>と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの議員も、天竜区が宝の山であると考えていることは間違いない。しかし、そのポテンシャルを生かしてないのが浜松市の現状であると思う。<u>どのようにすれば天竜区を良くできるのかを考えていかなければいけない</u>ということを、<u>議員それぞれが今思っている</u>ので、その実現のために<u>まず特別委員会を設置し、皆さんと協議させていただき、皆さんの声を教えてもらう仕組みを作っていく</u>。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後何かいろいろ対策を打つという面でも元々ポジティブではないイメージがもたれるという前提を理解した上でやっていただきたい。天竜区について、<u>今後どのように考えていただけるかは大変気になるため、しっかりと取組んでほしい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々議員だけで新たな取り組みを考えても絵に描いた餅になるため、<u>まずは特別委員会を設置して、住民の皆様ともやりとりをし、どうすれば声が届きやすくなるのか</u>ということを考えていきたいと思う。ぜひ皆さんにも<u>協力をしていただき、どうしたら市民の声が届きやすくなるのか、仕組み作りを一緒に考えていただきたい</u>と思っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ もし<u>議員定数を削減するのであれば、市議会議員 1 人分の予算を毎年配分するとか、研究会や自治会との連携を制度化するこれを条例化するとか、そういった仕組みを議会の新たな取り組みにおいて検討してほしい</u>。議員定数を減らすだけでなく、繋げる改革、繋ぐ改革をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別委員会設置による新たな仕組み作りについて、<u>天竜区の議員定数が仮に 3 名から 2 名になったときの 1 名分だけではなく、プラス 2 名とか 3 名分の議員の役割をしていくことがその仕組み作りで可能にならないか</u>ということを、ぜひ<u>前向きに考えていきたい</u>と考えている。<u>そのために市民の皆様から様々なアイデアをいただきたい</u>。例えば、<u>天竜区役所に議員の控え室を作ることも一つのアイデア</u>だと思うが、<u>そんなアイデアを皆さんに自由な発想で出していただき、実現できる方法を求めていきたい</u>と思っている。<u>ユニークなアイデアを出しながら、笑いながら語り合いながら新しい仕組み作りをしたい</u>と思っている。
佐久間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員の数が少なくなると住民との間に距離ができ、声が届かなくなるのではないかと懸念している。<u>天竜区に寄り添うための仕組みづくりを調査・研究していく</u>ということなので、その<u>取組に期待したい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>天竜区に寄り添う取組については、議会内でも議論していくが、地域の皆様とともにつくり上げていきたい</u>と考えている。天竜区の議員定数の増減に関わらず行うことなので、協力をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代が都市部に流れ、高齢化が進んでいる。<u>高齢者は投票所に行くのもままならない状況にある。そうした実情も理解していただきたい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>不安をどのように解消するかが今後の取組の肝</u>である。行政では区の再編によって副市長を配置したりコミュニティ担当を増員したりした。<u>今後議会としてどのように天竜区の皆さんの声を吸い上げていくか</u>ということを考えていくことになる。<u>行政と議会にはそれぞれ役割があり、行政を監視することも議会の大切な役割である。皆さんから寄せられた声をどのように行政に届け、市政に反映していくかを考えていくことになるので、協力をお願いしたい</u>。 ・ <u>若年層へのアプローチなど、地域に住んでいる</u>

天竜区内 5 地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
		<p>方からの生の声を聞きながら仕組みづくりを行うことが重要になるので、あらゆる場面を通じて意見を出していただきたい。</p> <p>・ 今後特別委員会が設置された際には、<u>地元の選出議員に限らず、よい人間関係をつくっていくことが大切である</u>。議員を身近に感じていただきたい。</p>
	<p>・ 冒頭のあいさつで、<u>ここへ来るまでの道中に感じたことや会議の中で出された意見を市政に反映してほしい</u>ということを言ったが、そのことを改めてお願いするとともに、<u>新たな取組に期待したい</u>。</p>	<p>・ <u>できる限り天竜区に足を運び、天竜区の皆さんと交流を深め、よい関係性をつくっていきたい</u>。<u>新たな取組もそのための一つの手段である</u>と捉えている。</p>
水窪	<p>・ 参考資料に記載されている<u>市議会の新たな取組について</u>、天竜区の住民の意見や課題を議会が吸い上げて、それを市政に反映できるようなシステムや制度を具体的に示すということだが、具体的に<u>どのような会議体で、どのように実施していくのか</u>。</p>	<p>・ 議員定数を削減するのであれば、そのような仕組みをつくる必要があるとの報告書が調査会から出されたものであり、<u>今後特別委員会を設置し、1年かけて皆さんの意見を聞きながら新たな仕組みをつくりあげていく</u>。</p> <p>・ <u>議会は行政の取組が正しいのかといったことを監視する役割がある</u>。議会としての<u>新たな取組の中で皆さんから意見を聞くことで、行政の取組が正しいのかといったことの判断材料になる</u>と考えており、委員会として設置してはどうかということである。</p>
	<p>・ <u>新たな取組ということだが、水窪地区であれば国有林の荒廃の状況等、現地へ赴いて実際の現場を見てもらうことが必要である</u>。また、全国的な課題として鳥獣被害がある。他市では市から自治会連合会に自由に使えるお金が配分されてくる。そうすれば柔軟な対応が可能であり、そのような実効性のある取組につながることを期待したい。</p>	<p>・ 天竜区選出の議員は常に天竜区内を回って活動しているが、1年に一度訪れる程度といった議員も多い。<u>人と人とのつながりを持つためには頻繁に往来したり連絡を取り合ったりする必要がある</u>と思っている。<u>現地視察の実施などについても、皆さんと議論する中でどのような方法が最適なのか模索していきたい</u>。結果的に<u>天竜区内の 5 地区でそれぞれの方法論があってもよいのではないか</u>と思う。</p> <p>・ <u>議員定数を減らすに当たっての代替策を議論している</u>。中山間地域に関する特別委員会を設置している山口県など、他都市の状況なども勉強する中で、今後のことではあるが、<u>新たな仕組みづくりを検討していきたい</u>。地域に住んでいる方の肌感覚に勝るものはないと考えており、<u>天竜区選出の議員を中心に据えながらも、市議会議員として他区選出議員であつてもともに考えていきたい</u>。例えば水窪地区で特別委員会を開催したり、移動委員会として様々な場所で開催し、市民の方が傍聴しやすくするように<u>したりするなど、議会と皆さんの距離を縮めていくことが大切である</u>と考えている。</p>

天竜区内 5 地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
	<ul style="list-style-type: none"> 人口をいかに減らさないかという不可能に近い課題がある。<u>現役世代の人口流出を避けるため、雇用を生むような施策をお願いしたい。</u> <u>議員定数が減ると住民の声が届きにくくなるのではないかと</u>いうことを地域は懸念している。災害によって、東栄町から引佐町を経由して市街地へ出るという状態が長期間続いたことがあったが、そのような実情が分かりづらくなるのではないかと。 <u>人口減少が進む中、次世代の担い手をどのように育てていくかが課題である。意見や要望を伝えることは大事だが、その要望が通ることが大事であり、要望の中身も相応のものでなければならない。</u>そういった意味では地域に住む人間も賢くならなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別委員会を設置した際に、<u>地域の方とざっくばらんなことが言えるようになればよいアイデアが出てくる</u>と思っている。そういったことを考えていくのが特別委員会の意義だと考えている。 天竜区の議員定数 3 人を維持したとしても、<u>天竜区に寄り添う新たな仕組みが必要だ</u>と考えている。<u>議会のみで考えると実効性がないものになってしまう可能性があるため、皆さんとともに考えていきたい。</u> <u>次世代をどう育てるかは共通の課題である。</u>その地域の魅力をどのように発信し、どのようにすれば若い世代が地域に定着するのか、行政・議会・住民が一体となって取り組んでいくことが大切である。 次世代の担い手をどのように育てていくかといった未来志向の御意見もいただいた。<u>今後水窪地区をさらに盛り上げていくためにどうすればよいのか、一緒に考えていきたい。</u>
春野	<ul style="list-style-type: none"> 仕組みという話があった。<u>現在、市議会で上がっている具体的な仕組みとは何か。</u>また、市では天竜区に手厚くということで、中山間地域振興計画と特命の副市長の配置、中山間地域振興課の設置がある。様々な<u>仕組みについて考えると、議会で委員会など組織化してほしい。</u>中山間地域振興計画の進捗状況の報告や、<u>市に対して議会から提案などが出てくるようになるのではないかと。</u>中山間地域の問題は天竜区だけの問題ではない。引佐北部も中山間地域である。中山間地域の空気、水、森林などの果たす役割、影響は浜松市全域に及ぶ。<u>浜松市全体として中山間地域を考えてほしい。</u>自治会と議員が委員会に入り議論をしていくような場をつくれば、<u>安心できる要素になる。</u>仕組みづくりとして提案したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域、特に天竜区が浜松市全域に影響を及ぼすと考え。浜松の南ではあまりその意識がないのが問題点。天竜は宝の山だという思いはあるが、<u>そうしたポテンシャルを議会も行政も生かしてないのが問題点。</u>どうしたらという解決案がなかなか生まれないのが現状。<u>そこを皆さんとともに話し合いながら解決し、今回の新しい仕組みをつくり上げられたらと考えている。</u>委員会という話も一つの案であるのは間違いないが、まだ我々から具体的な案を出せないのは、<u>我々が作ったものでは机上の空論になりかねない恐れがある。</u>住民とともに話し合いながら新しい仕組みづくりをして、地域の情報を我々が知る、生かす仕組みづくりを<u>考えていきたい。</u>今回、我々もこの特別委員会をまず設置して、新たな仕組みづくりをしたいことを理解してほしい。これだけで解決するとは思えないが、少しでも前に進めたらと思い、提案している。 天竜区だけの問題ではなく、<u>森の涵養などの力は浜松市にとっても非常に大きい。</u><u>この資源をどう生かすか、我々として生かすにはどのようなことをやったらいいかを考えていくことが非常に大事。</u>当然、浜松市も中山間地域振興計画をつくっているのだから、いかに進捗管理しながら実現を図っていくかが非常に重要。<u>市全体、議会全体として、この地域をどのようにこれから運営していく、皆様の声を聞きながらそれを反映していくか</u>

地区	住民側	議会側
	<p>が非常に重要な部分と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域の問題は市全体の問題という話があった。我々も始めは中山間地域特別委員会という方向性もあったが、まずは<u>天竜区と地域を限定して、それがうまくできれば、ほかにどんどん広げていく形のものを作りたい</u>と思っている。まず、この最も浜松市で面積が大きい天竜区を地域住民と語ることが一番大切と思っている。今後そうした形で、特別委員会で仕組みをつくっていききたい。 <p>• 合併20 年、3 区制になって1 年が経った。<u>天竜区には様々な資源があると、これは20 年前から言っていた。ただ、実際のところどのような取組をしたのか。そして、今20 年になってやっと初めて天竜区の皆さんの話を聞きますと。20 年の間どうしていたのか。これからやることには大変期待があるが、今まで天竜区に対してどのようなことを考えてきたのか。そして反省も含めて、これから新しい取組をしようとしているのか。皆の本心はそこにあるのではないか。今までの天竜区に対する議会としての取組、考え方を教えてほしい。</u></p> <p>• 先ほど、削減関係なく取組をすると言っていたことは大変ありがたいが、<u>もう一度天竜区の現状を見ていただきたい。区役所、支所、行けばよいが、免許を持っていない人も増えている。当然バスも走っていない。そうしたところから、中山間地域にはまず何が一番大事かを、ぜひその目で見て、そして一緒になって、新しい中山間地をつくっていただく。そうした視点でこの取組をやっていただきたい。</u>この取組の意義も、それにより初めて前を向けるのではないか。</p>	<p>が非常に重要な部分と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域の問題は市全体の問題という話があった。我々も始めは中山間地域特別委員会という方向性もあったが、まずは<u>天竜区と地域を限定して、それがうまくできれば、ほかにどんどん広げていく形のものを作りたい</u>と思っている。まず、この最も浜松市で面積が大きい天竜区を地域住民と語ることが一番大切と思っている。今後そうした形で、特別委員会で仕組みをつくっていききたい。 <p>• <u>天竜区を見据えたとき、この広い面積を3 人でカバーするのはやはり非常に難しい。</u>天竜区の議員3 名は日々様々な場所へ足を運び、広い天竜区をどうするかと考えていることが改めて感じ取れた。やはり<u>議員それぞれが市議会議員として天竜区を見直さないといけない</u>と話し合う中で、<u>特別委員会の設置など様々な意見が出てきた。その中で、新しい仕組みづくりをすることが議会改革検討会議でまとまったと理解してほしい。</u></p> <p>• <u>今回の特別委員会では実際に生活される方の肌感覚を我々もしっかり持てるような取組を入れていきたいというのがアイディアとしてある。ぜひ一緒によいものをつくり上げていきたい。</u></p> <p>• <u>ざっくばらんに言える体制をどうしたら作れるのかを重要視したい。</u>我々議員だけで考えても、ざっくばらんにならない。地域住民から、<u>こうしたらざっくばらんに話ができるという声、ちょっと聞いてくれ</u>というような話ができる体制づくりが夢。その<u>仕組みづくりを住民と話を</u>して、<u>1 年間かけて仕組みづくりを作っていききたい。</u>計画などを特別委員会で議論することも必要であるし、<u>地域に入って皆さんと話をすることも必要。</u>それが次回選挙で勝ち残った議員一人一人の役割。皆が天竜区へ来て、天竜区の議員と話を<u>する、天竜区の議員は住民と話を</u>するというような<u>仕組みづくりができた</u>ら、浜松市議会はいよいよ議会になるのではないか。これが私の今の夢であり、この仕組みづくりを話している原点である。その仕組みづくりを皆さんと話を<u>して進めさせていただきたい。</u></p>

地区	住民側	議会側
龍山	<ul style="list-style-type: none"> 議員が少なくなっていくということは、<u>広い面積の地域の声が取り上げられることが段々となくなっていくのではないかな。何とかその辺はカバーできないかな。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>広い面積で声を取り上げられないのではないかなという懸念に対しては、今回、特別委員会を設置し、新たな仕組みづくりを通じて皆様の声を聞く方法を検討していく。我々だけで机上の議論をするのではなく、1 年かけて特別委員会が皆様と対話しながら、適切な仕組みづくりを進めていきたいと考えている。個人的な見解ではあるが、5 地区全てが同じ仕組みである必要はないと考えている。各地区の特性に応じたやり方があってもよいのではないかな。このような点も皆様と協議しながら、議会としてどのような仕組みづくりができるかを検討していきたい。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> 確認だが、<u>合併前は議員が216 人いたということ</u>でよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>各地区に議員がすぐそばにいたという状況であった。そのため、議員に声を届けるという場は非常に多かったと思われる。合併して議員に対する声が届きにくくなったという意見を我々も多く聞いている。その届きにくくなった部分を解消したいというのが、今回の新たな取組の目的である。天竜区の議員は、この広い地域を3人で担当しており、様々な活動をしていただいていることに頭が下がる思いである。それを議会全体でカバーできないかなというのが今回の考え方の一つである。ぜひ理解していただきたい。この新たな取組を作る上では、皆様のお考えや声を聞きたいので、その際には御協力をお願いしたい。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> <u>議会として新たな取組を、住民の意見を参考にしながら進めていくことを強調したい。単なる形式的なものではなく、意味があり有効な取組が生まれるよう、議会の皆様には自ら住民の意見を積極的に求めていただきたい。さらに、これからの時代にふさわしい提案を行い、この地域が活力ある良い地区になるよう尽力していただきたい。そのような委員会になることを要望する。</u> <u>新たな取組には財政出動も絡む可能性がある。行財政改革という名のもとに、それができないというようなことでは不安が募るため、そこは配慮をお願いしたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>我々も一生懸命考えて、提案をするようにする。ただし、我々だけで進めると、机上の議論だけになる可能性もあるので、ぜひ相互でアイディアを出し合いながら、良い仕組み作りを構築し、令和9年4月から稼働させたい。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> <u>議会に対する窓口が減ることになるため、議員以外の窓口を作っていただきたい。議会に直結しないかもしれないが、段階を経て上がっていけるような場所を作っていただきたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>新しい仕組み作りは、議員にうまくつながるかということが重要である。地区として議員につながる仕組み作りをどうするか考える必要がある。市議会議員は市全体を見なければならぬが、関係性ができれば電話一本で対応できるようになる。人と人との関係を構築しながら、窓口となる関係性ができた人を作る仕組みができればよいと考える。ただし、これは個人的な発想であるため、皆さんと話し合いながら仕組み作りを進めて</u>

地区	住民側	議会側
		いく。 <u>行政が議員の秘書役のような形で各地に人を配置し、住民とやりとりをするという考え方もあったが、行政としては難しいという話もあった。そのため、それに代わるものができないか検討する。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> 合併した際にぶどうの房という形で来たものが、区制になってから、どちらかという平等になってしまった。さらに、行革のもとで様々なことが削減され、それが衰退を招いた最大の要因となっている。そのような中で、今回また同じように<u>議員定数の問題で削減というようなことになる</u>と、ここに住んでいる皆さんは、<u>天竜区が見捨てられるのではないかと不安がますます大きくなる</u>と思われる。我々はここで住んで生活していかなければならないので、このような思いも生まれている。これを実行したことで、<u>(合併が)無駄になったような気持ちにならないようなことを、ぜひ大前提に考えていただきたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>皆さんが不安に思っていることを一つでも解決できるような仕組み作りを考えていきたい</u>と思っている。先ほどから言っているように、その仕組み作りの際のご協力をお願いしたい。必ずとは言えないが、ぜひ役立つような仕組み作りを実現したいと思うので、よろしくお願いしたい。行政も担当副市長を設置したり様々な取組を始めている。我々議員は行政とは違う立場で、<u>天竜区のポテンシャルをどう生かせるかということ</u>を、<u>議会として取り組んでいきたい</u>と考えている。もし違う方向性だと思われたら、ご指摘いただければ、議会として頑張っていく所存である。

発言の主なポイント

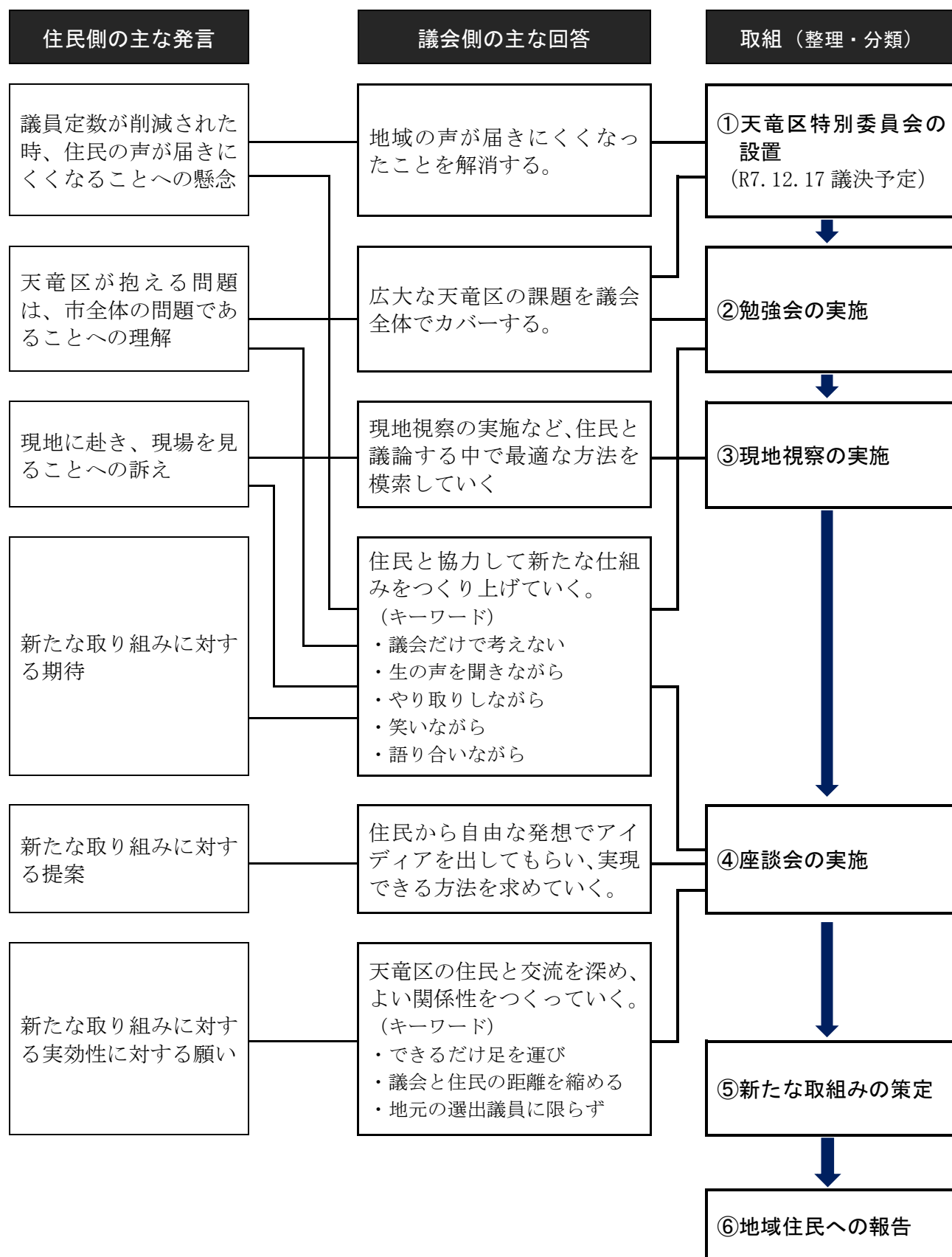
[住民側]

- ❖ 議員定数が削減された時、住民の声が届きにくくなることへの懸念
- ❖ 新たな取り組みに対する期待
- ❖ 新たな取り組みに対する提案
- ❖ 天竜区が抱える問題は、市全体の問題であることへの理解
- ❖ 現地に赴き、現場を見ることへの訴え
- ❖ 新たな取り組みの実効性に対する願い

[議会側]

- ❖ 新たな取り組みは、広大な天竜区の課題を議会全体でカバーするためのもの。
- ❖ 新たな取り組みは、地域の声が届きにくくなったことを解消するためのもの。
- ❖ 新たな仕組みづくりは、議員だけで考えるのではなく、住民と対話しながら進める。
- ❖ 新たな仕組みづくりは、各地区の特性に応じて検討を進める。

天竜区特別委員会による取組内容（案）



天竜区特別委員会の年間活動計画（イメージ）

月	特別委員会	現地訪問が可能な時期 ※現地視察や座談会など	地域との調整	備考
1	活動内容&活動計画の決定			
2	座談会及び現地視察の実施方法等の検討 ※「座談会①」に向けた準備	勉強会の開催 ※「座談会①」に向けた準備	支所等への確認作業	2月定例会
3				
4		↕		
5	新たな取組み（たたき台）の作成 ※「座談会②」に向けた準備（地域課題や地域意向などに関する情報整理を踏まえ、新たな取組内容を検討する。）			5月定例会
6			支所等への確認作業	
7		↕		
8		↕	支所等への確認作業	
9	新たな取組み（素案）の作成 ※「地域住民への報告①」に向けた準備（地域意向などを踏まえ、たたき台を見直しし、素案を作成する。）			9月定例会
10			支所等への確認作業	
11		↕		11月定例会
12		↕	支所等への確認作業	
1	新たな取組み（最終案）の作成 ※地域意向などを踏まえ、素案を見直しし、最終案を作成する。	↕		2月定例会
2				
3	活動報告			

◎特別委員会の取組内容及び年間活動計画の方向性

[会派からの意見等]

会派名	意見等
自由民主党浜松	別紙「天竜区特別委員会 仕組みづくり(活動計画)の考え方」参照
市民クラブ	<p>①天竜区民の声を聴く 市議会議員が、5つの地区に出向き、住民から直接話を聴く場を設ける。</p> <p>②天竜区の現場を確認する 市議会議員が、5つの地区に出向き、現場を確認しながら住民の声を聴く場を設ける。</p>
公明党	<p>①座談会テーマ、目的、対象者について 「テーマ」 防災、医療関係、公共交通の利便性、鳥獣対策、人口減少対策、生活に関することなど 「目的」 天竜区民の意見、要望に傾聴し、必要であれば現場を確認する。 「対象者」 自治会員、自治会役員、連合自治会会長まで</p> <p>②新たな取り組み・考え方について * 5つの地域において座談会を開き、話を聴き、現場を視察する。要望があれば持ち帰って、当局と協議する。➡2回目に報告会をする。その際、地域ごとに実施している事業の報告をして市の政策を理解していただく。 * 半年で座談会、視察の反省または検証し、より良い方向性を検討する。</p>
創造浜松・国民民主党浜松	<p>①地域の意見を聞く会の設置・開催</p> <p>②コミュニティ協議会の設置支援</p>
日本共産党浜松市議団	<p>①天竜区の5地区全ての住民の声を聞く機会（座談会）を設定し、現地の視察を行う。議会改革検討会議にて報告を実施した際に呼びかけた団体・個人に呼びかける。</p> <p>②春野町和泉平のような集落についても現地視察と集落の課題など住民の声を聞く機会をつくる。</p> <p>③勉強会では各地区の要望、課題を整理することと合わせて、中</p>

	<p>山間地域振興計画も学習する。</p> <p>④新たな取組みについては5つの地域特性に配慮していく。</p>
<p>浜松市政向上委員会</p>	<p>①年齢層を考慮して地域別の座談会</p> <p>②会議向けの意見箱の設置（支所ごと、ネット）</p> <p>③イベント時に議会ブースを設置し、気軽にどんな仕組みがいいのか直接聞く。</p>

天竜区特別委員会 仕組みづくり(活動計画)の考え方

1. 背景と課題

天竜区は森林・水源・人の営みが浜松市全体の持続可能性を支える重要な地域である。しかし、人口減少・高齢化・交通や医療の不足・空き家の増加・産業担い手の減少など、生活基盤を揺るがす課題が深刻化している。本市はこれに対し、市全体の理念を示す「浜松市総合計画」(以下「総合計画」)と、総合計画に基づく地域特性に即した具体方針を示す「第3次中山間地域振興計画」(以下「振興計画」)を策定している。

一方で、議員定数削減を検討されている段階において、天竜区民からは地域代表性の確保に対する強い懸念が示されている。

議会における代表性の縮小は、地域課題の反映に影響を及ぼす可能性があるため、制度的に住民意見を確実に反映させる仕組みが不可欠である。

このため、**本委員会**は、この二計画の理念を議会の責務として制度化し、住民の声を制度的に保障しながら地域の持続可能性を確保する**仕組みづくり**を、**令和8年度末(約1年4ヶ月)までに策定**する。

2. 議会の役割

議会は行政のように**施策を直接執行する機関ではない**ため、以下の四つの責務を担うものである。

- ・課題を整理し、政策の方向性を提示すること
- ・各種制度が適切に運用されているかを検証すること
- ・成果を評価し、市民に説明責任を果たすこと
- ・住民との対話を制度化し、政策に反映すること

※議会権限の性質

行政は「**実行**」する権限を持つが、議会は「**決定・承認・監視**」が中心

3. 視点の整理

委員会としての天竜区の視点は、総合計画及び振興計画を基盤とし、以下の五つの柱とする。

政策視点	内容	総合計画との対応	振興計画との対応
① 生活基盤の持続性	交通・医療・福祉・防災の維持	「持続可能性」	「まち」
② 産業と地域資源の活用	林業・農業・観光の収益化と担い手確保	「地域経済の強化」	「しごと」
③ 交流人口・関係人口の拡大	ワーケーション・教育滞在の導入	「魅力創造」	「ひと」
④ 制度活用検証	過疎債・交付金等の点検	「共助社会」	制度活用枠(横断的)
⑤ 説明責任と透明性	KPI評価・成果公表	「進捗管理と説明責任」	全体を支える制度設計

4 活動の方向性と仕組み

実施活動計画は、2年間で1サイクルとして設計し、このサイクルを繰り返すことで、課題の把握・制度監督・成果説明・住民フィードバックを循環的に実施し、継続的な改善を積み重ねる。これを実施する組織(既存・新設)は、8年間(4サイクル)を継続することで、長期的に課題を蓄積し、改善を制度化することとする。

- ・第1期(前半:約1年)
行政資料収集(勉強会含)・課題整理(区民意見含)・分析 → 課題整理・方向性提示
- ・第2期(中盤:約半年)
各制度活用調査・施策検証・区民意見 → 進捗状況確認・改善提案
- ・第3期(後半:約半年)
KPI評価・成果報告会(区民含) → 次年度施策へ反映

■概略イメージ (2年間1サイクルとし、8年間4サイクル)

